

御幸まち協だより 11版 第7号

平成31年2月1日発行

発行 御幸地区まちづくり協議会広報情報部

御幸地区コミュニティセンター

龜山市東御幸町2200・3

電話・FAX 83・12622

新年を迎えて

「きょういへ」と「きょうよう」

御幸地区まち協会長 小林 研一

わが町御幸・東御幸地区には、「きょういへ」(教育ではなく今日行く)、「きょうよう」(教養ではなく今日用)を大事にしている高齢者の方がたくさんおられます。

毎朝の散歩、買い物、趣味、サロン活動、旅行、ボランティア等々、それぞれが自分にあった「きょういへ」「きょうよう」を実践されています。そんな人たちに出会うたびに「みなさん元気ななあ」「自分は負けとるわ」なんて思います。

このごろ、ふと「物忘れが多いな」「体が不自由になったらどうしよう」「将来、施設に入るお金あるやろか」「そろそろ要らんもの片づけな」と考えることがあります。「認知症予防」「介護」「終活」等の言葉が自分にとって、とても身近に感じるようになりました。70歳「近づいているからかな」。

「健康で長生き」これが誰しもの願いだと思えます。私も是非そうありたいと思います。



辛いなこと、私は、まち協の役をさせていただいております。そのおかげで、会議や行事、サロンなどで多くの人と会話したり、体を動かしたので生き生きする機会があります。時に

は、頭を使うこともあります。私にとって大事な「きょういへ」と「きょうよう」の1つになっていると思えます。

新年を迎え、今年も御幸地区まちづくり協議会の更なる発展のために頑張りますので、よろしくお願いいたします。

【防災特集】

天災は忘れたころに!!

東御幸町 村嶋恵美子

昨年は、何回、自然災害があったでしょう。私たちが住むこの御幸地区にも、かつて大きな災害がありました。昭和49年7月、集中豪雨による竜川の氾濫でこの地区一帯は大海原と化しました。

それまでも度々、竜川の氾濫による水害はありましたが、道路が川の様になる程度でした。その日、主人は土木建設業に従事しており、前夜から国道一号線の災害対策に出ていて不在でした。そんな中、夜が明けるころには水は床下まで来ていました。しかし、今までも同様のことが何度もあったため、家族は避難することなく自宅で待機していました。少しでも移動できる家具類は子供たちと高いところに上げることに一生懸命でしたが、夜明けとともに水は一気に床上1mまで上がってきました。時間になると30分もかからなかった感じでした。浸水と共に家の中から多くの物が流出し、大物家電や家具が転倒、畳は全滅。移動できないピアノなどは水没していました。この時、線路の向うに鈴鹿川のうねった水面が目に見えて、何とも言えない不安感を覚えました。水が完全に引くまでに1週間ほどかかり、その間に家の中の壁は土壁のため、全て落ちてしまい、水が引いた後の床下に溜まった泥の多



さに驚きました。水分を含んだ泥は大変重く、その水分を少しでも早く取り消費するために石灰を何十袋も捲いたことを覚えていますが、また、処分量は半端でなく、私一人では途方に暮れていましたが、主人の会社からの手助けと友人たちが毎日手伝いに来てくれたお陰で、早くに終える事が出来ました。本当に感謝の気持ちでいっぱいでした。この頃のトイレは汲み取り式の時代でしたので、俗にいう「ミソクソ」一緒はこのことだと思っています。

大量に石灰を撒いたことや、知人、友人の手伝いで早くに泥を取り除けたことで、家族が病気にかかることなく元気を取り戻し、ご近所の友人たちと前向きに生活するように日々、お互いに励ましあいながら日常を取り戻していきました。それでも新しい畳の上で生活できるようになったのは新年を迎えるころだったと記憶しています。

今、あの未曾有の水害から約半世紀が過ぎようとしています。あの水害を体験した方も少なくなりましたが、災害は思いもかけない時にやってきます。高齢化社会を迎えた今日、如何に危険を察知し、早めに対応し、避難することの重要性をひしひしと自身で感じていきます。

備えあれば憂いなし

老人宅へのいち早い避難情報の提供や安心できる避難場所の確保などの行政のサポートはもとより、自ら防災グッズの準備と日頃からのご近所付き合いが、被害を最小限にできることだと過去の体験を通して肌で感じていきます。



当時の実際の写真

御幸地区の名所

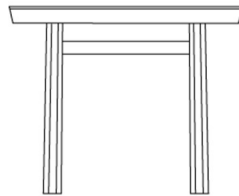
◆ JR 亀山駅の前に建っている鳥居 ◆
 いつも見慣れている鳥居ですが皆さんこの鳥居について詳しくご存知でしょうか。

この鳥居は田村町にある日本武尊を主祭神とする能褒野神社の鳥居です。大きさは円柱高さ6.9m・笠木長さ約10mあります。大正15年に亀山駅と能褒野神社の間に二基建てられました。その一基です。昭和30年ごろまでは南崎交差点付近に建てられていましたが、その後道路の改修に伴い現在の場所に移設されました。

【参考】鳥居の数え方は一基・二基です。鳥居の形には、大きく分けると八幡・稲荷神社を代表する神明系と伊勢神宮を代表する神明系がありこの鳥居は神明系に属します。



能褒野神社一の鳥居 (神明系鳥居)



伊勢神宮の鳥居 (神明系鳥居)

◆ 亀山市文化会館前の蘇鉄 ◆

文化会館の玄関右に大きな蘇鉄の木が植わっています。「亀山に過ぎたるものが二つある、伊勢屋蘇鉄に京口門」と唄われたほどの銘木で現在三重県指定天然記念物に指定されています。元は東海道亀山宿東町の旅館「伊勢屋」の庭にありましたが、昭和59年の県道拡幅工事のため撤去を余儀なくされ、

それに合わせて亀山市に寄贈、文化会館の玄関前に移植されました。14本の幹に分かれた総株周り5mほどの姿のよい立派な蘇鉄です。樹齡は500年をゆうに超えると推定されます。

サロンみゆきのご案内
特別講座開催

テーマ「間違いだらけの終活」

日時 2019年2月6日(水) 午前10時〜正午
 場所 御幸地区コミュニティセンター
 講師 NPO法人花の父母 理事長田中啓子氏

「エンディングノートを書く」「葬儀について考える」「相続を考える」・・・。終活といってもさまざまな項目があります。人生の今後に備えることは、年齢に関係なく大事なことであるが、それらの関連情報が氾濫しています。自分に合った納得のできる終活のヒントを知り安心の終活術を学びましょう。

● コミュニティセンター新事務職員紹介

長年の間コミュニティ運営管理にご尽力いただきました高土知子さんの後任として、今年1月1日より中根干加子さん(御幸町在住)に勤務して頂いています。よろしくお願いたします。

● コミュニティセンターの日曜日使用について
 昨年より日曜日は使用不可としています。ただし、次項の場合は使用ができます。

- ① 御幸地区まちづくり協議会及び御幸地区内の自治会活動に係る活動
- ② 亀山市が主催または共催・協賛する行事等の活動



冬は防寒わら囲い中です。

御幸地区（御幸町・東御幸町）人口・世帯数の推移データ

- ① 総人口・高齢者・子どもの比率はほぼ一定。
- ② まち協加入世帯の加入率が50%を割り減少傾向が続く。
- ③ 御幸地区より亀山西小学校・亀山中学校に通学する生徒数
 亀山西小学校生 46名 亀山中学校生 14名
- ④ 御幸地区の高齢化率(22.5%)は日本・三重県全体高齢化率より少しだけ低い。

高齢化率データ(平成29年10月)

日本全体平均27.7% 三重県全体平均29.0%

参考:市民文化部地域づくり支援室作成

地区名	人口・世帯数		人口											世帯数	まち協加入世帯数	まち協加入比率
	総人口		前年総人口	増加率	65歳以上			14歳以下								
	男	女			男	女	65歳以上/総人口	男	女	14歳以下/総人口						
25年度	818人	404人	414人	815人	0.4%	185人	77人	108人	22.6%	111人	65人	46人	13.6%	181		
26年度	812人	396人	416人	818人	-0.7%	182人	76人	106人	22.4%	108人	43人	65人	13.3%	179		
27年度	813人	400人	413人	812人	0.1%	183人	79人	104人	22.5%	107人	49人	58人	13.2%	386	47%	
28年度	778人	380人	398人	813人	-4.3%	177人	71人	106人	22.8%	98人	50人	48人	12.6%	376	47%	
29年度	782人	384人	398人	778人	0.5%	177人	73人	104人	22.6%	102人	51人	51人	13.0%	382	46%	
30年度	787人	387人	400人	782人	0.6%	177人	71人	106人	22.5%	110人	56人	54人	14.0%	393	44%	